



地震から身を守る ふだんの備えと心構え

～日本海中部地震で 当市の被害1億4千万円～

五月二十六日正午過ぎ、東北、北海道一帯に大地震（震度5）が発生し、各地に大きな被害をもたらしました。当市には幸い死傷者はありませんでしたが、住宅や公共施設の損壊、商品破損、ブロック塀の倒壊など被害総額約一億四千万円にもぼる大きなツメ跡を残しました。また今月九日夜にも強い地震がつついて起きています。ある日突然、何の予告もなしに襲ってくる地震。わたしたちは、地震の発生そのものを防ぐことができませんが、被害を最少限にしたいとめることはできます。日ごろから、いざというときの物心両面での準備を怠らないようにしたいものです。

グラツときたら 避難の心得「場所別」

〈木造家屋にいたら〉
たとえ一階はつぶれても二階はまだ安全。あわてて階段を駆け降りたり、窓から飛び出すのは危険です。屋内で安全なのは柱の多い場所、トイレの中や風呂場。揺れが激しくても、すぐには外に出ないで丈夫な机やテーブルの下に身をかくし様子を見ること。カワラや看板、ガラスなどが落ちてきて思わぬケガをします。また、逃げだすときは、きちんと火の始末をしましょう。

〈街の中を通行中のとき〉

看板や窓ガラスの破片などの落下物から身を守るため、コート、買い物袋などで頭を守りながら、近くの丈夫な建物や空地に避難しましょう。

〈鉄筋建築物の中にいたら〉

団地やオフィスビル、ホテルなどは構造的に一応安心とみていいでしょう。ただ、ドアが開かなくなる場合があるので、直ちにドアを開けましょう。また外に出るときはエレベーターを避け、階段を

市内の避難場所については次号でお知らせします

使いまししょう。
このほか劇場、デパートでは普段から非常口を確認しておくこと。また、怖いのは群衆がパニック状態に陥ること、係員の指示に従い落ち着いて行動をしてください。

これだけの備えは ぜひ必要【家庭編】

〈重い物は上に置かない〉
室内の有効利用でスペースを広くとばかりに、物を上へ上へと積むのは危険です。家具や棚の上に置かれたテレビや装飾用の置き物、ガラス器具など重い物や鋭利なもの、せめて腰の位置より低い所に置くようにしましょう。また、家具類の収納物も、重い物を下に入れ重心を下げる工夫が大切です。

〈降り凶器に要注意〉
天井や壁に取り付けられた照明器具、額、時計などは地震時には降り凶器に一変します。留め具などの点検は忘れなく。

〈可燃物は安全な場所に〉
不意に襲う地震の恐怖は、消火の手を遅らせがちです。延焼の原因となるような可燃物（灯油、ペンジン、殺虫剤など）燃えやすい日用品は、しっかりふたや栓をして安全な所に保管しましょう。

〈非常持ち出し袋の用意を〉

電気、ガス、水道が一時的にせよ止まったり、避難場所によっては水、食糧などの供給がすぐに行かない場合があります。いざというときの非常持ち出し袋を作って、必要なものを入れておきましょう。

〈例〉懐中電灯、ロウソク、マッチ、固型燃料、トランジスタラジオ、飲料水、食料品、かんきり、下着類、手ぬぐい、ビニール、ふろしき、救急医薬品、寝装など。

赤ちゃんのいる家ではミルク、おしめなども。なお、現金、ハンコ、預金通帳などの貴重品類は、いざというとき持ち出せるようにしておきましょう。

〈そろえたい救急医薬品〉
災害時には負傷したり、やけどや煙で目をやられたりします。そこで次の救急医薬品を用意しておくくと便利です。

キズ薬、消毒薬、目薬、胃腸薬、脱脂綿、ばんそうこう、三角布、包帯など。

このほか、グラツとききた時、家族全員があわてず行動できるよう、家族みんなでふだんからよく話し合い、それぞれの行動分担を決めておきましょう。また避難場所を決め、家族がバラバラになつたときなどの連絡方法も打ち合わせておきましょう。

地震による被害状況

住家全壊	1棟
住家一部破壊	7棟
非住家破壊	15棟
公共建物	18棟
その他	24棟
文教施設	

水道	38カ所
道路	4カ所
農業用水施設など	8カ所
ブロック塀倒壊など	21カ所
商品等の破損	262カ所

市長の 対話ノート

平等・対等



No. 69

「市長に来てもらえて光栄だ」、「市長自ら出向いていただきまして……」よくこういうお言葉をいただきますし、主催する側の立場としての当然語かもしれません。

しかし、私は市民の皆さんとお話する機会をできるだけ多く持つために出席させていただいているので、特に気を使っていたりする必要ありません。それよりも心配なことは、市長という特定意識を市民の皆さんが持たれるということですね。

人間は誰しもが生れながらにして対等、平等であります。貧富の差、体力の差、能力の差等で特定意識をもつことは許されません。特に能力差を強調される風潮が強い昨今でありますが、能力とは一体何のことでしょうか。字の上手下手。記憶力の良し悪し、話しの上手下手等、部分を基準にして評価したら差はあるでしょう。しかし人間の評価は部分ではありません。評価の基準は総合であり「個性」ではないでしょうか。とすれば能力差など存在しないはずであります。

どこまでも、個性を、人権を尊重し合うことを忘れてはなりませんし、又特定意識をもたなければ、つまり権力を使わなければ説得ができない事ほどみじめなことはないと思います。

お互いにもっと自らの対等、平等の権利意識を確立し合いたいものです。